

日本女性学習財団賞 大賞 松崎実穂さん(東京都)

<介護とわたしー体験・知識・思いの共有がつくりだす未来へ>

介護という「わたしの体験」を語れなかった私が、さまざまな学びと出会いを通じ、この体験を介護者支援の仕事の中で、また研究者として、社会で活かしてゆく道を歩み始めるまでの過程を記した。

1章では介護体験をふり返り、2章では自らが感じた家族介護の問題点について述べた。3章では介護体験が人生選択に及ぼした影響と、その後の私の人生をふり返る。私は進学した先で行っていた介護研究を挫折し就職したが、キャリアカウンセリングを学び、自らの過去の体験を捉え直すきっかけを得た。4章では、仕事として介護に再び向き合った場での介護経験者たちとの出会いと、介護体験を共有することの意味を述べた。また、再度研究者として介護に取り組む機会を得、改めて自らの介護経験と研究者としての視点から言えることを述べた。最後に、現在の活動と今後の展望についてふれる。